



Prime Collaboration Deployment を使用する Cisco Unified Communications Manager Release 10.5(1) への移行

初版：2014年05月08日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。



目次

移行の準備 1

はじめに 1

MI 移行について 1

移行の準備チェックリスト 2

ライセンス 3

互換性の確認 3

仮想化の要件 4

ソフトウェア ダウンロード 4

設定とログイン情報 5

クラスタ登録 6

セキュリティ トークン 6

テスト計画 6

Cisco Unified Communications Manager のバックアップ 6

移行前の手順 6

アップグレード、移行および設定 9

アップグレードプロセス 9

現在のリリースのリリース 6.1(5) または 7.1(5) へのアップグレード 10

仮想マシンへの Prime Collaboration Deployment の導入 12

現在の Unified Communications Manager クラスタをリリース 10.5(1) に移行するための Prime Collaboration Deployment の設定 12

ESXi ホスト サーバの追加 13

既存クラスタの検出 14

移行クラスタの定義 15

移行タスクの追加 16

Cisco Unified Communications Manager のリリース 10.5(1) への移行 18

ロールバック手順 21

ロールバック手順 21

リンクと参考資料 23

リンクと参考資料 23



第 1 章

移行の準備

- [はじめに, 1 ページ](#)
- [M1 移行について, 1 ページ](#)
- [移行の準備チェックリスト, 2 ページ](#)
- [移行前の手順, 6 ページ](#)

はじめに

Cisco Prime Collaboration Deployment は、Unified Communications アプリケーション用の移行アプリケーションです。リリース 10.0(1) Cisco Unified Communications Manager からは仮想マシンのみをサポートし、物理サーバをサポートしません。Prime Collaboration Deployment 10.5(1) でユーザは物理サーバに導入された既存のクラスタを仮想マシン上の Cisco Unified Communications Manager Release 10.5(1) に移行できます。物理マシンで動作する 10.0(1) 以前の Cisco Unified Communications Manager クラスタを保有し、Prime Collaboration Deployment を使用して、仮想マシンで動作する Cisco Unified Communications Manager 10.5(1) に移行する場合、このプロセスは M1 移行と呼ばれます。

本書では、次のリリースからの Cisco Unified Communications Manager Release 10.5(1) の移行手順を説明しています。

- リリース 6.1(5)、7.1(3)、7.1(5)、8.0(1-3)、8.5(1)、8.6(1-2)、9.0(1)、9.1(1-2)

M1 移行について

Prime Collaboration Deployment を使用する Cisco Unified Communications Manager Release 10.5(1) への移行は「はじめに」セクションに記載されている Cisco Unified Communications Manager リリースバージョンでのみサポートされます。リリース 4.1(3)、4.2(3)、4.3(2)、5.1(2)、5.1(3)、6.0(1)、6.1(1)、6.1(2)、6.1(3)、7.0(1)、7.0(2) および 7.1(2) から Unified Communications Manager Release 10.5(1) への直接アップグレードはサポートされていません。

これらのリリースでは、Unified Communications Manager Release 10.5(1)に移行するためのM1移行手順を使用する前に、中間リリースにアップグレードする必要があります。次の作業を行って、移行を実行します。

- 1 中間リリースとして Unified Communications Manager Release 6.1(5) または 7.1(5) にアップグレードします。
- 2 仮想マシンに Prime Collaboration Deployment を導入します。
- 3 Prime Collaboration Deployment for Cisco Unified Communications Manager クラスタをリリース 10.5(1) に移行する準備をします。
- 4 Prime Collaboration Deployment を使用して、現在の Unified Communications Manager をリリース 10.5(1) に移行します。

本書の移行プロセスは、次の環境の Unified Communications Manager クラスタに適用されます:

- 次の Unified Communications Manager リリースのいずれかがインストールされています: リリース 4.1(3)-4.3(2)、リリース 5.1(2)-5.1(3)、リリース 6.0(1)-7.1(5)、またはリリース 8.0(1)9.1(2)
- Unified Communications Manager クラスタが、Cisco Media Convergence Server (MCS) のサーバにインストールされます。
- Unified Communications Manager アップグレードには、IP アドレスまたはホスト名の変更は不要です。IP アドレスまたはホスト名を変更する必要がある場合は、本書では説明していない追加の手順が必要です。詳細については、「[Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスとホスト名の変更](#)」を参照してください。
- Unified Communications Manager Release 10.5(1) への移行は、実稼動ネットワークで実行されます。

移行の準備チェックリスト

始める前に、次の情報を確認し、移行の要件をすべて満たしていることを確認してください:

- [ライセンス](#), (3 ページ)
- [互換性の確認](#), (3 ページ)
- [仮想化の要件](#), (4 ページ)
- [ソフトウェア ダウンロード](#), (4 ページ)
- [設定とログイン情報](#), (5 ページ)
- [クラスタ登録](#), (6 ページ)
- [セキュリティ トークン](#), (6 ページ)
- [テスト計画](#), (6 ページ)
- [Cisco Unified Communications Manager のバックアップ](#), (6 ページ)

ライセンス

この移行手順には Unified Communications Manager 10.5(1) 用のライセンスが必要です。この移行に必要なライセンスは次のとおりです:

- Unified Communications Manager Release 10.5(1)

以前のバージョンの Unified Communications Manager から Unified Communications Manager Release 10.5(1) に移行する前に、移行を開始する前に以前に購入したライセンスファイルをすべて Unified Communications Manager にインストールします。以前に購入したすべてのライセンスファイルをインストールしない場合、未請求のライセンスはアップグレードした Unified Communications Manager が使用できなくなります。アップグレード後にライセンスを再インストールすることはできません。

ハイ アベイラビリティをサポートするために、Unified Communications Manager Release 10.5(1) クラスタはライセンスなしで 60 日間フル機能のデモ モードで動作します。60 日後も、Unified Communications Manager クラスタは継続してコールを実行し、ルート指定しますが、有効なライセンスが関連の Prime License Manager (PLM) で利用できるようになるまで、デバイスおよびユーザを追加または削除する機能は無効になります。

詳細については、移行の中央サイトに掲載されたライセンスのマニュアルを参照してください。

<https://communities.cisco.com/community/partner/collaboration/migration/blog/2013/04/15/license-migration>

ライセンスを取得するには、次のリンクを参照してください:

[ライセンス ユーザ インターフェイス](#)

互換性の確認

エンドポイント、ゲートウェイ、ボイスメール、プレゼンスまたは他のアプリケーションなど、組織で使用されているデバイスとアプリケーションのバージョンがこのリリースの Unified Communications Manager でサポートされているかどうかを調べるには、次の情報を確認してください。

『[Cisco Unified Communications System Release Summary Matrix for IP Telephony](#)』

『[Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix](#)』

シスコは、アップグレードのために Cisco IM および Presence Service、Attendant Console、Cisco Contact Center Express (UCCX)、Cisco Emergency Responder (CER) などの互換性を考慮することを推奨します。

IM と Presence は Cisco Unified Communications Manager と同じメンテナンス時間帯にアップグレードする必要があります。互換性の詳細については、次の文書を参照してください。

『[Compatibility Information for IM and Presence Service and Cisco Unified Communications Manager](#)』

サードパーティ製アプリケーションの場合は、次のリンクのアプリケーションカタログを見て、このリリースの Unified Communications Manager がアプリケーションをサポートすることを確認し

ます。アプリケーションがカタログに記載されていない場合は、アプリケーションがこのリリースの Unified Communications Manager と互換性があることをベンダーに確認してください。

[Developer Network Marketplace ソリューションカタログ](#)

シスコは機能や他のアプリケーションとの統合に影響する可能性のある Unified Communications Manager の中間リリースおよび対象リリースの未解決の警告の一覧を確認することを強く推奨します。次の URL にあるリリース ノートの未解決の警告の一覧を参照してください:

[Cisco Unified Communications Manager リリース ノート](#)

仮想化の要件

仮想化に対応したユニファイドコンピューティングサーバ (UCS) システムを設計する必要があります。ほとんどの導入では高可用性を必要とするため、UCS サーバの種類と数を計画する必要があります。また、ストレージ、サーバの接続性および ESXi のバージョンを計画する必要があります。次のリンクで仮想環境の設計に関する詳細を参照してください。

[購入または導入の前に - 設計および調達のための考慮事項](#)

UCS サーバは外部保留音ソースをサポートしません。UCS サーバで仮想化された Unified Communications Manager クラスタを使用する場合、同様のサービスへの影響を考慮してください。

また、次の場所の Unified Communications Manager Release 8.0(2) 以降の仮想化サポートに関する資料を参照されることをお勧めします。

http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_in_a_Virtualized_Environment

http://docwiki.cisco.com/wiki/Unified_Communications_VMware_Requirements

Prime Collaboration Deployment を導入するための仮想化のライセンス要件を確認してください。

[PCD 向けの仮想化ソフトウェアのライセンス要件。](#)

ソフトウェア ダウンロード

アップグレードの準備をするには、次の場所から次にリストされているソフトウェアをすべてダウンロードしてください:

<http://software.cisco.com/download/navigator.html?mdfid=268439621&flowid=37562>

- Cisco Unified Communications Manager リリース 10.5(1) ブート可能イメージ
- Cisco Prime Collaboration Deployment リリース 10.5(1) vApp
- アップグレードプロセス中に中間リリースとして使用しているバージョンに応じて、Cisco Unified Communications Manager リリース 6.1(5) アップグレードイメージまたはリリース 7.1(5) アップグレードイメージ
- Unified Communications Manager Release 10.5(1) 用電話ファームウェア
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10.5(1) デバイス パッケージ

- (任意) Cisco Unified Communications リリース 10.5(1) ロケール インストーラ (ローカル言語用)
- Unified Communications Manager リリース 10.5(1) の仮想サーバのテンプレート (OVA ファイル)
- 最新の Unified Communications Manager リリース用 Cisco Unified Communications Manager リカバリ ソフトウェア
- Unified Communications Manager リリース 4.1(3)、4.2(3)、4.3(1) 用
Cisco Unified Communications Manager Data Migration Assistant (DMA) 6.1(4)
Cisco CallManager Upgrade Assistant 4.3(13)

次の場所から、下記のソフトウェアをダウンロードしてください:

<http://tools.cisco.com/gct/Upgrade/jsp/index.jsp>

- Unified Communications Manager Release 6.1(5) のブート可能バージョン (Unified Communications Manager リリース 4.x を実行している場合のみ該当)。

設定とログイン情報

アップグレード手順の実行時に問題が発生した場合の最新の Unified Communications Manager ノードの現在の設定とログイン情報を文書化します。Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) および Syslog を確認し、次の情報を取得する前にエラーを解決します:

- IP アドレス、ホスト名、ゲートウェイ、ドメイン名、DNS サーバ、NTP サーバと SMTP 情報
- 管理者、クラスタセキュリティ、Certificate Trust List (CTL) のセキュリティ トークン パスワード
- サーバのバージョンおよびタイムゾーン
- 各サーバで実行されているすべてのサービスおよび関連のアクティベーション ステータス
- コール詳細レコードのサーバ設定と追加情報
- LDAP 情報およびアクセスの詳細
- SNMP 情報

RTMT または Unified Communications Manager デバイス カウントのサマリーを使用して登録数を判定します。各 Unified Communications Manager ノードの場合、表示される各デバイス タイプの数を記録します。たとえば、各種の IP 電話とゲートウェイの数、および各 FXS、FXO、T1CAS、PRI、MOH、MTP、CFB、XCODE デバイス リソース。

クラスタ登録

本書では、Unified Communications Manager クラスタに IP 電話機またはデバイスの登録がない Unified Communications Manager パブリッシャおよび Unified Communications Manager TFTP ノードがあると想定しています。すべての登録は、クラスタ内のプライマリ Unified Communications Manager サブスクリイバに対するものです。バックアップ Unified Communications Manager サブスクリイバは完全な登録の冗長性のために使用されます。2 ノードのクラスタ導入では、パブリッシャ ノードが TFTP サーバおよびバックアップ サブスクリイバになる場合もあります。

セキュリティ トークン

クラスタが混合モードクラスタの場合、既存のセキュリティ証明書のトークンを見つけ、トークン情報を記録します。

セキュア クラスタを実行しているかどうかを確認するには、現在のリリースの『[Cisco Unified Communications Manager Security Guide](#)』で説明した手順に従います。

テスト計画

アップグレードする前に実行し、直接アップグレードを実行するポストアップグレードのテスト計画を作成します。この計画には、たとえば、さまざまな使用例をカバーする一連のテストがあります。アップグレードの前後で同じテストを実行します。これにより、アップグレードの前と後に予期される Unified Communications Manager の操作機能を確認する方法が提供されます。

Cisco Unified Communications Manager のバックアップ

それぞれのアップグレードの前に、クラスタ全体の Disaster Recovery System (DRS) バックアップを実行することを強く推奨します。最新のバックアップなしでアップグレードすると、アップグレードプロセス中に問題がある場合に、データの損失、ノード設定の損失、またはサービスの中断が発生する可能性があります。DRS バックアップ手順の詳細については、Cisco.com にある『[Disaster Recovery System Administration Guide](#)』を参照してください。

移行前の手順

- アップグレードにかかる時間を短縮するには、不要になったコール詳細レコード (CDR) またはログ ファイルを削除または消去します。
- Prime Collaboration Migration を使用した移行を成功させるための推奨プラクティスを参照してください。ベストプラクティスでは、Cisco Unified Communications Manager ノードを WAN 全体に導入する場合の TFTP ディレクトリのサイズと帯域幅の要件について説明します。

詳細については、「[TFTP ディレクトリ サイズの要件](#)」および「[PCD のベストプラクティス](#)」を参照してください。

- パートナーの場合、シスコはアップグレード計画段階で PDI ヘルプデスクに連絡することを推奨します。PDI チームはアップグレード計画を確認し、必要なサポートを提供し、プロアクティブな TAC ケースを提出できます。PDI チームに連絡するには、<http://www.cisco.com/go/pdihelpdesk>を参照してください。直接 TAC に連絡することを選択する場合、プロアクティブな TAC ケースのための次の情報を入力してください。

- Unified Communications Manager アップグレード準備状態アプリケーションからの詳細な出力 (Web または iPad のバージョン)
- 連絡窓口およびメンテナンス時間に関する情報
- アップグレード計画

詳細については、<http://tools.cisco.com/ServiceRequestTool/create/launch.do>を参照してください。

- データベース レプリケーションのタイムアウト値を延長して、サブスクリバサーバがレプリケーションを要求するために十分な時間を持つようにします。詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager、リリース 9.1\(1\) のアップグレードガイド](#)』の「アップグレード前の作業」のセクションを参照してください。
- Cisco Unified Mobile Communicator デバイス名は、最大 15 文字までにしてください。詳細については、『[Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions](#)』を参照してください。
- Unified Communications Manager のリリースに対応する電話機ファームウェアを適用します。アップグレード後の電話機のダウンタイムを最小限に抑えるために、アップグレード前にエンドポイントへの新しいファームウェア ファイルを制御された方法で適用できます。その後、Unified Communications Manager サーバで TFTP サービスを再起動し、ダウンタイムを最小化するために制御された順序で IP 電話機を再起動します。

電話機は、アップグレード後に新しいファームウェアをダウンロードします。アップグレードの前に、グループの電話機にファームウェアを適用すると、電話機がアップグレード完了後にファームウェアをアップグレードすることを防ぐことによって、TFTP サーバの負荷を軽減できます。ファームウェアのアップグレード時には、電話機を通話に使用できません。電話機ファームウェアのアップグレードには、Unified Communications Manager のアップグレード時間外のメンテナンス時間を利用することをお勧めします

『[Cisco Unified Communications System Release Summary Matrix for IP Telephony](#)』には、Cisco Unified Communications Manager のすべてのリリースで推奨される電話機のファームウェアバージョンがまとめられています。

- Unified Communications Manager リリース 4.1(3)、4.2(3)、4.3(2) の場合:
 - Cisco Unified Communications Manager アップグレードユーティリティ 4.3(10) 以降をインストールして実行します。アップグレードユーティリティの詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/upgrade/assistant/up4310tl.html を参照して

ください。DMA ツールを実行する前に、アップグレードユーティリティによって検出されたエラーを解決します。

- ° Cisco Unified Communications Manager パブリッシャに DMA をインストールして実行します。DMA の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/dma/6_1_3/dmaug613.html を参照してください。



第 2 章

アップグレード、移行および設定

- [アップグレードプロセス, 9 ページ](#)
- [現在のリリースのリリース 6.1\(5\) または 7.1\(5\) へのアップグレード, 10 ページ](#)
- [仮想マシンへの Prime Collaboration Deployment の導入, 12 ページ](#)
- [現在の Unified Communications Manager クラスタをリリース 10.5\(1\) に移行するための Prime Collaboration Deployment の設定, 12 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager のリリース 10.5\(1\) への移行, 18 ページ](#)

アップグレード プロセス

リリース 4.1(3)、4.2(3)、4.3(2)、5.1(2)、5.1(3)、6.0(1)、6.1(1)、6.1(2)、6.1(3)、7.0(1)、7.0(2V)、7.1(2V) から Unified Communications Manager リリース 10.5(1) へは直接アップグレードできません。これらのリリースでは、次の表に示すリリースへアップグレードしてから、移行を実行します。

現在のリリース	アップグレード先...
4.1(3)、4.2(3)、4.3(2)	7.1(5) (DMA を使用)
5.1(3)、6.1(3)、6.1(4)	6.1(5)
5.1(2)、6.0(1)、6.1(1)、6.1(2)	6.1(3) にアップグレードし、次に 6.1(5) にアップグレード (これは複数アップグレードです)。
6.0(1)	6.1(2)、6.1(3)、6.1(5) の順にアップグレード (これは複数アップグレードです)。

現在のリリース	アップグレード先...
7.0(1)	7.0(2) にアップグレードし、次に 7.1(5) にアップグレード（これは複数アップグレードです）。
7.0(2)、7.1(2)	7.1(5)

次の段階で移行を完了してください:

- 1 中間リリースとして Unified Communications Manager Release 6.1(5) または 7.1(5) にアップグレードします。
- 2 仮想マシンに Prime Collaboration Deployment を導入します。
- 3 Prime Collaboration Deployment for Cisco Unified Communications Manager クラスタをリリース 10.5(1) に移行する準備をします。
- 4 Prime Collaboration Deployment を使用して最新の Unified Communications Manager リリースへ移行します。

リリース 6.1(5)、7.1(3)、7.1(5)、8.0(1-3)、8.5(1)、8.6(1-2)、9.0(1)、9.1(1-2) からアップグレード

- 1 現在リリース 6.1(5)、7.1(3)、7.1(5)、8.0(1-3)、8.5(1)、8.6(1-2)、9.0(1)、9.1(1-2) をインストールしてある場合、中間リリースにアップグレードする必要はありません。次の段階で移行を完了してください:
 - a 仮想マシンに Prime Collaboration Deployment を導入します。
 - b Prime Collaboration Deployment for Cisco Unified Communications Manager クラスタをリリース 10.5(1) に移行する準備をします。
 - c Prime Collaboration Deployment を使用して最新の Unified Communications Manager リリースへ移行します。

現在のリリースのリリース 6.1(5) または 7.1(5) へのアップグレード

次のリリースのいずれかから Unified Communications Manager Release 6.1(5) または 7.1(5) にアップグレードするには、次の手順を使用してください:

- リリース 5.1(3)
- リリース 6.1(2)、6.1(3) および 6.1(4)
- リリース 7.0(2) および 7.1(2)

手順

- ステップ 1 すべての設定タスクを終了します。アップグレード中は、設定タスクを実行しないでください。
- ステップ 2 クラスタの拡張モビリティを無効にします。
- ステップ 3 現在のクラスタの DRS バックアップを実行します。
- ステップ 4 パブリッシャ ノードを Unified Communications Manager に現在のリリースからターゲットリリースにアップグレードし、自動的に再起動する場合は [No] を選択します。
- ステップ 5 専用 TFTP ノードをアップグレードし、続いて、クラスタでバックアップ サブスクリバノードとプライマリ サブスクリバノードをアップグレードします。これらのアップグレード時に、自動的に再起動する場合は [No] を選択します。
- ステップ 6 アップグレードされたパーティションにパブリッシャ ノードを切り替えます。
- ステップ 7 パブリッシャの Unified Communications Manager リリース 10.(1) に対応する電話機ファームウェアをインストールします (1) パブリッシャで。パブリッシャ ノードが TFTP サーバでもある場合は、TFTP サービスを再起動します。
- ステップ 8 クラスタのデータベース レプリケーションがエラーなしで完了したことを確認します。Cisco Unified Reporting または Cisco Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager, Release 9.1(1) のアップグレードガイド』の「アップグレードタスク」のセクションを確認してください。
- ステップ 9 Unified Communications Manager グループ内での順序を変更して、プライマリ サブスクリバノードを使用して登録するクラスタ内の電話機とデバイスを設定します。
- ステップ 10 プライマリ サブスクリバノードをすべてアップグレードされたパーティションに切り替えてください。
- ステップ 11 プライマリ サブスクリバノードがアップグレードされていること、およびデータベース レプリケーションがエラーなしで完了したことを確認します。
- ステップ 12 Unified Communications Manager グループ内での順序を変更して、プライマリ サブスクリバノードを使用して登録するクラスタ内の電話機とデバイスを設定します。デバイスプールを使用して順番にデバイスをリセットするか、またはバックアップ サブスクリバノードで Unified Communications Manager サービスを再起動して、プライマリ サブスクリバノードにデバイスを登録します。
- ステップ 13 アップグレードされたら、クラスタ全体の Disaster Recovery System (DRS) のバックアップを実行します。
- ステップ 14 仮想マシンに Prime Collaboration を導入します。詳細については、[仮想マシンへの Prime Collaboration Deployment の導入](#)、(12 ページ) を参照してください。

仮想マシンへの Prime Collaboration Deployment の導入

Cisco Prime Collaboration Deployment は、個別の仮想マシンを必要とし、物理サーバではサポートされません。Prime Collaboration Deployment は、vApp を使用して導入できます。vApp は OVA テンプレートとインストール ISO を 1 つのファイルにまとめます。

仮想化ソフトウェアのライセンス タイプ

Cisco Prime Collaboration Deployment はライセンスの一部が必要な VMware API を有効にしないので、VMware vSphere ESXi のすべてのライセンス タイプと互換性があるわけではありません。移行機能に影響があるため、Cisco Prime Collaboration Deployment および Unified CM Release 10.5(1) に必要な仮想マシンの次のライセンス要件に注意してください。Cisco Unified Communications Manager Business Edition 6000 のお客様は、以下のライセンス要件により影響を受けます。

以下のライセンスは、Cisco Prime Collaboration Deployment と互換性があります:

- Cisco UC Virtualization Foundation (vSphere Client Base Edition と表示されます)。
- VMware vSphere Standard Edition、Enterprise Edition、または Enterprise Plus Edition
- 評価モードのライセンス

- 1 vApp を使用して、Prime Collaboration Deployment を導入します。
- 2 インストール手順の詳細については、次のマニュアルを参照してください: 『[Installation of Cisco Prime Collaboration Deployment](#)』。
- 3 Prime Collaboration を設定します。詳細については、[現在の Unified Communications Manager クラスタをリリース 10.5\(1\) に移行するための Prime Collaboration Deployment の設定](#)、(12 ページ) を参照してください。

現在の Unified Communications Manager クラスタをリリース 10.5(1) に移行するための Prime Collaboration Deployment の設定

移行タスクは、既存の Cisco Unified Communications Manager のクラスタを、仮想マシンを実行する新しいリリース 10.5(1) に同時にアップグレードおよび移行するために使用されます。

手順

-
- ステップ 1 新しいクラスタの仮想ハードウェア インフラストラクチャを導入して、ESXi をインストールします。
 - ステップ 2 SFTP 推奨 OVA および Unified Communications Manager リリース 10.5(1) 用ブート可能 .iso イメージを Prime Collaboration Deployment サーバの /fresh_install ディレクトリにインストールします。

- adminsftp** および Platform (OS) admin のパスワードを使用して、SFTP を使用する Prime Collaboration Deployment サーバに接続します。
- ステップ 3** 宛先クラスタ ノードのインストール用のブランク VM を作成するためにシスコ推奨の Unified Communications Manager Release 10.5(1) 向け OVA を導入します。
- ステップ 2 でダウンロードした Cisco OVA を使用して ESXi ホスト上に適切な数のターゲットの仮想マシン数を作成します（既存のクラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager サーバに 1 台の新しい仮想マシン）。
 - 新しい VM のネットワーク設定を構成します。
- ステップ 4** Cisco Prime Collaboration Deployment インベントリに仮想マシンを含む ESXi ホストを追加します。ESXi ホストのホスト名または IP アドレス、およびルート証明書を提供する必要があります。詳細については、[ESXi ホスト サーバの追加](#)、(13 ページ) の手順に従ってください。
- ステップ 5** 必ず、Cisco Unified Communications Manager の既存のクラスタ（ソース クラスタ）にクラスタ検出を実行して、クラスタインベントリに表示されるようにしてください。詳細については、手順 [既存クラスタの検出](#)、(14 ページ) に従ってください。
- ステップ 6** MCS 送信元ノードとターゲットの仮想マシン間のマッピングを定義するために、移行クラスタ（**[Inventory] > [Clusters]**）を作成します。詳細については、手順 [移行クラスタの定義](#)、(15 ページ) に従ってください。
- (注) 移行クラスタが作成されると、ユーザはすべての宛先ノードが同じホスト名 / IP アドレスを保持するか、または一部のアドレスを変更するかを示します。Prime Collaboration Deployment は移行時の IP アドレスとホスト名の変更に対応していますが、本書の手順では移行中に IP アドレスおよびホスト名の変更がないと仮定しています。
- (注) すべての宛先ノードに送信元ノードの設定を使用するオプションは、移行では「シンプルな移行」と呼ばれます。
- ステップ 7** (オプション) **[Administration][Email Notification]** に移動して、メール通知を設定します。メール通知が設定されている場合、Prime Collaboration Deployment サーバが移行タスクで発生する可能性のあるエラー状態をメールで通知します。
- ステップ 8** Prime Collaboration Deployment で移行タスクを作成します。詳細については、手順 [移行タスクの追加](#)、(16 ページ) に従ってください。

ESXi ホスト サーバの追加

手順

- ステップ 1** **[Prime Collaboration Deployment]** メニューから **[Inventory][ESXi Hosts]** を選択します。
- ステップ 2** **[ESXi Host]** ページの一番上の **[Add ESXi Host]** ボタンをクリックします。 **[Add Host Server]** ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** 次の情報を入力します。
- IP アドレスまたはホスト名

- Root ログイン
- Root パスワード

ステップ 4 [OK] をクリックします。
ESXi ホストが正しく追加されました。

既存クラスタの検出

クラスタ検出機能を使って、Cisco Prime Collaboration Deployment で既に Unified Communications Manager を実行しているサーバに接続し、そのクラスタ情報を Cisco Prime Collaboration Deployment インベントリに追加できます。

手順

ステップ 1 [Prime Collaboration Deployment] メニューから [Inventory][Clusters] を選択します。

ステップ 2 [Clusters] ページの上の [Discover Cluster] ボタンをクリックします。
[Discover Cluster] ウィザードが表示されます。

ステップ 3 次の情報を入力します。

- クラスタ ニックネーム
- パブリッシャ ホスト名または IP アドレス

(注) Unified Communications Manager と IM および Presence Service ノードの両方を備えたクラスタの場合、「Unified Communications Manager publisher」と入力します。Prime Collaboration Deployment は IM および Presence Service ノードの移行に対応していますが、本書では Cisco Unified Communications Manager についてのみ説明します。

- OS 管理者ユーザ名
- OS 管理者パスワード

ステップ 4 [Next] をクリックします。
Prime Collaboration Deployment がクラスタの検出を開始します。クラスタ検出には 5 分以上かかる場合があります。大規模なクラスタの検出には、さらに時間がかかる場合があります。検出中、クラスタ内の各ノードが接続され、ノードに関する情報が記録されます。COP ファイル (ciscoem.ucmap_platformconfig.cop) がクラスタ内のすべてのノードのアクティブなパーティションに自動的にインストールされて、クラスタデータを取り込むことができます。

ウィザードのステップ 2 の下で、Cisco Prime Collaboration Deployment はパブリッシャのサーバインベントリからクラスタノードのリストを生成します。このプロセスが完了するまでに数分かか

場合があります。リストが生成されると、「Cluster Discovery Process is complete. (クラスタ検出プロセス完了)」というメッセージが表示されます。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 (任意) [Assign Functions] ボタンをクリックして、各クラスタ ノードに機能を割り当てます。
[Assign Functions] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 7 [Assign Functions] ダイアログボックスから、[Previous] または [Next] をクリックして、変更するノードを選択します。

(注) [hostname] フィールドに選択したノードが示されます。ノードごとに、1つの機能または複数の機能を割り当て、[Notes] フィールドに機能の割り当てに関するメモを追加できます。機能を割り当てることにより、各ノードの機能を定義できますが、これはアクティブ化されるサービスには影響を与えません。ただし、この情報はタスクのデフォルトのシーケンスを決めるために使用できます。

ステップ 8 割り当てたい機能をすべて割り当てたら、[OK] をクリックします。

ステップ 9 [Finish] をクリックします。
クラスタが正しく検出されました。

移行クラスタの定義

移行タスクを作成する前に、移行クラスタを作成する必要があります。移行クラスタを定義することによって、検出された現在の Cisco Unified Communications Manager クラスタ ノード（「クラスタの検出」を参照）と移行したクラスタをホストするために使用される新しい VM からマッピングを作成します。

手順

ステップ 1 [Prime Collaboration Deployment] メニューから [Inventory][Clusters] を選択します。これまでに検出された（または定義された）クラスタが表示されます。

ステップ 2 [Define Migration Destination Cluster] をクリックして、移行の宛先クラスタ定義ウィザードを開始します。

ステップ 3 宛先クラスタ設定ウィザードのステップ 1 を完了します:

- a) ドロップダウン リストから送信元クラスタを選択します。
- b) [Destination Cluster Name] フィールドに名前を入力します。
- c) 適切な [Destination Network Settings] オプションを選択します。

(注) ネットワーク オプションを保持するには、[Use the source node network settings for all destination nodes] ラジオ ボタンを選択します。

- ステップ 4** [Next] をクリックします。
- ステップ 5** [Assign Destination Cluster Nodes] ボタンをクリックして、[Configure Destination Cluster] ウィンドウを開きます。
- ステップ 6** 各送信元ノードから宛先 VM を選択することによって、宛先クラスタを設定します。リストされている送信元ノードのホスト名がページ上部に表示されます。
- VM の隣のラジオ ボタンをクリックして、このノードの VM を選択します。
 - クラスタ内の次のノードに進むには、[Next Node] ボタンをクリックします。クラスタに複数のノードがある場合は、ソースクラスタ内のノードごとに、これらの手順を実行する必要があります。
- ステップ 7** すべてのノードに宛先 VM が割り当てられたら、[DONE] をクリックして [Configure Destination Cluster] ウィンドウを閉じます。Prime Collaboration Deployment には、このノードの宛先 VM の横にリストされるクラスタの送信元ノードおよび IP アドレスが表示されます。
- ステップ 8** 情報が正しい場合は、[Next] をクリックして、ウィザードのステップ 3 に移動します。
- ステップ 9** [Configure NTP/SMTP settings] ウィンドウで、移行タスクの実行時に移行ノードに適用されるネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバ設定と SMTP サーバ設定を入力します。
- ステップ 10** [Next] をクリックします。
移行先の定義ウィザードのステップ 4、[Configure DNS Settings] が表示されます。移行クラスタノードの DNS 設定オプションがあります。
- ステップ 11** ノードの DNS 設定を変更するには、テーブルからノードを選択し、[Assign DNS Settings] ボタンをクリックします。プライマリおよびセカンダリ DNS、ドメインを入力し、[OK] をクリックして、変更を適用します。
- ステップ 12** [Finish] をクリックして、ウィザードを終了し、変更を保存します。
新しいクラスタ定義は「移行」クラスタタイプのクラスタ インベントリに追加されます。

移行タスクの追加

手順

- ステップ 1** メインメニューから [Task][Migrate] を選択します。
- ステップ 2** [Add Migration Task] をクリックします。[Add Migration Task] ウィザードが表示されます。
- ステップ 3** [Source UC Cluster] ドロップダウンリスト ボックスから宛先クラスタまたは移行マップを選択します。移行マップは選択したソース クラスタと関連付けられています。
- ステップ 4** [Next] をクリックします。
- ステップ 5** [Choose Migration Files] セクションで、宛先クラスタにインストールする Cisco Unified Communications Manager ISO ファイルを選択します。

[Choose a Migration File] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 リストから ISO ファイルを選択して、[OK] をクリックします。

ステップ 7 [Next] をクリックします。

ステップ 8 [Set Start Time] セクションで以下のオプションのいずれかを選択し、[Next] をクリックします。

- [Schedule a start time]
- [Start the task immediately]
- [Start the task manually at some point in the future]。この移行のために、タスクを手動で開始する場合は、このオプションを選択します。

ステップ 9 [Specify Migration Procedures] セクションで、移行タスクのシーケンスを設定します。推奨シーケンスは以下のとおりです。

- a) パブリッシャ ノードを移行します。一時停止を追加します。
- b) ご利用の環境に専用の TFTP ノードが導入されている場合は、専用 TFTP ノードを移行します。
- c) すべてのバックアップ サブスクリバ ノードを移行します。一時停止を追加します。
- d) すべてのプライマリ サブスクリバ ノードを移行します。

移行タスクを作成すると、Prime Collaboration Deployment にインストール ステップごとに 1 台のサーバを持つデフォルトのシーケンスが表示されます。編集ツールを使用して、1 つのステップに複数台のサーバを配置できます。最良の結果を得るためには、1 つのステップに 6 台を超えるサーバを含めないでください。

- 鉛筆のアイコン—[Edit Step] ウィンドウを表示します。
- ページのアイコン—現在のステップの後に新しいステップを追加します。
- X—現在のステップを削除します。
- 上矢印—ステップを先に実行されるように上に移動します。
- 下矢印—ステップを後で実行されるように下に移動します。

(注) [Edit Step] ウィンドウで利用可能なノードのリストから移行するノードを追加できません。

- 各ノードに割り当てられているステップは、ノードの隣に表示されます。ノードがどのステップにも割り当てられていない場合、ノードは未割り当てとして表示されます。
- [Pause task after step completes] オプションで、このステップの完了後にタスクを一時停止します。このオプションを選択する場合、タスクを続行するには、次のステップを手動で開始する必要があります。

- ステップ 10 [Next] をクリックします。
- ステップ 11 選択を見直します。 [Review] セクションでは、新しい移行タスクにメモを追加するオプションもあります。
- ステップ 12 新しい移行タスクを追加するには、 [Finish] をクリックします。 タスクは [Migrate] 画面の表に表示されます。
- ステップ 13 Unified Communications Manager クラスタの DRS バックアップを実行します。
- ステップ 14 [Cisco Unified Communications Manager のリリース 10.5\(1\) への移行, \(18 ページ\)](#) に進みます。

Cisco Unified Communications Manager のリリース 10.5(1) への移行

セクション 8 の一部としてこれまでに完了した設定はサービスを中断する必要がなく、Unified Communications Manager クラスタのリリース 10.0(1) への移行をサポートするために Prime Collaboration Deployment を設定する必要がありました。以下の手順に従い、Prime Collaboration Deployment を使って、現在の Unified Communications Manager をリリース 10.5(1) に移行してください。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager クラスタですべての設定タスクを停止します。アップグレード中は、設定タスクを実行しないでください。
- ステップ 2 クラスタの拡張モビリティを無効にします。
- ステップ 3 Prime Collaboration Deployment にログインし、 [Monitoring] をクリックして、タスクのステータスを表示します。
タスクがタスクリストに表示されますが、手動による起動を待機します。
- ステップ 4 移行タスクの各手順の実行の詳細を表示するには、タスク ステップの隣の黒い三角形をクリックします。
(注) 手動で起動された場合、タスクに関連付けられた「検証」ボタンがあります。ベストプラクティスでは、タスクを実行する前に確認するために検証ボタンを使用する必要があります。タスクに問題がある場合 (.iso ファイルが見つからない、VM がオフ状態でないなど)、検証によりユーザにアラートが表示され、タスクの開始前に問題を解決できます。
すべてのテストに合格すると、システムに「All Validation Tests Passed (すべての検証テストに合格しました)」と表示されます。
- ステップ 5 この手動タスクに関連付けられた [Start] ボタンをクリックします。
最初の Unified Communications Manager パブリッシャが移行されます。Prime Collaboration Deployment は現在の Unified Communications Manager パブリッシャを自動的にシャットダウンします。

移行タスクは、パブリッシャが Unified Communications Manager 10.5(1) に正常に移行されると一時停止します。

- ステップ 6** Unified Communications Manager 10.5(1) を実行するパブリッシャにログインし、10.5(1) 以前で有効になったすべてのサービスが動作していることを確認します。
- ステップ 7** 移行を続行するには、[Resume] をクリックします。
移行タスクは、専用 TFTP ノードとすべてのバックアップサブスクリバノードを Unified Communications Manager 10.5(1) に移行します。Prime Collaboration Deployment は、MCS サーバで動作している対応するノードをシャットダウンします。
専用 TFTP ノードとバックアップサブスクリバノードが移行されると、移行タスクは一時停止します。
- ステップ 8** パブリッシャと TFTP ノード、バックアップサブスクリバノード間でデータベースレプリケーションが設定され、エラーなく完了することを確認します。
(注) データベースレプリケーションの時間は、データベースのサイズによって異なります。プライマリサブスクリバノードのデータベースの同期は、まだ Unified Communications Manager 10.5(1) に移行される予定であるため、完了しません。Cisco Unified Reporting または Cisco Real-Time Monitoring Tool を使用します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager のアップグレードガイド』の「標準アップグレードタスク」のセクションを参照してください。
- ステップ 9** Unified Communications Manager グループ内で順序を変更するか、デバイスプールを使用して、クラスタ内の電話機やデバイスをバックアップサブスクリバノードを使用して登録するように設定します。
- ステップ 10** 移行を続行するには、[Resume] をクリックします。
移行タスクはすべてのプライマリサブスクリバノードを 10.5(1) に移行します。Prime Collaboration Deployment は、MCS サーバで動作している対応するノードをシャットダウンします。
この時点で、すべての IP 電話およびデバイスは、MCS ハードウェアで動作するプライマリサブスクリバノードのシャットダウン時に、リリース 10.5(1) のバックアップサブスクリバノードに登録されます。
- ステップ 11** すべてのプライマリサブスクリバノードが UCM 10.5(1) に正常に移行されたら、パブリッシャとすべてのノード間でデータベースレプリケーションが良好な状態で設定されていることを確認します。
- ステップ 12** Unified Communications Manager グループ内での順序を変更して、プライマリサブスクリバノードを使用して登録するクラスタ内の電話機とデバイスを設定します。デバイスプールを使用して順番にデバイスをリセットするか、またはバックアップサブスクリバノードで Unified Communications Manager サービスを再起動して、プライマリサブスクリバノードにデバイスを登録できます。
- ステップ 13** 『Cisco Unified Communications Manager のアップグレードガイド』の「アップグレード後タスク」のセクションで推奨されているように Unified CM Release 10.0(1) ダイアルプランとロケールをイ

インストールします。詳細については、『*Prime Collaboration Deployment Administration Guide*』を参照してください。

- ステップ 14** アップグレード前の一般手順のセクションに従って、データベース レプリケーションのタイムアウト値を変更した場合は、タイムアウトをデフォルト値に戻します。アップグレードの開始時にオフにした拡張モビリティを有効にします。
- ステップ 15** 仮想化された Unified CM クラスタ サービスおよびデバイス登録が動作していることを確認します。この時点で、仮想 Unified CM クラスタ全体はリリース 10.5(1) にあります。
- ステップ 16** 現在の Unified CM ライセンスを Unified CM リリース 10.5(1) ライセンスに移行します。
(注) このライセンスに関する手順を完了するまでに、60 日間あります。詳細については、<https://tools.cisco.com/SWIFT/LicensingUI/Home> を参照してください。
- ステップ 17** ポストアップグレードテスト計画を実行します。
ポストアップグレードテスト計画が正常に完了すると、Cisco Unified Communications Manager 10.5(1) への移行は完了です。
- ステップ 18** クラスタの DRS バックアップを実行します。
-



第 3 章

ロールバック手順

- [ロールバック手順, 21 ページ](#)

ロールバック手順

アップグレード時に問題が発生し、アップグレード前のバージョンにロールバックする必要がある場合は、『*Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

移行は Prime Collaboration Deployment を使用して行われたため、元の Cisco Unified Communications Manager クラスタを MCS サーバでまだ利用できますが、このクラスタはシャットダウン状態にあります。前のバージョンへのロールバックには、仮想マシンで動作する Cisco Unified Communications Manager 10.5(1) ノードのシャットダウンおよび MCS サーバ上の 10.5(1) 以前の Cisco Unified Communications Manager ノードの起動も含まれます。エンドユーザに対する長時間のダウンタイムを避けるために、このプロセスは順序どおりのシーケンスで実行する必要があります。Cisco Unified Communications Manager の 8.0(x) 以前のリリースへのロールバックに関する下記の情報を確認します。

クラスタを 8.0(x) 以前のリリースに戻す場合、セキュリティ関連の重要な変更を説明する以下のマニュアルを参照してください:

『[Migrating IP Phones Between Clusters with Cisco Unified Communications Manager 8 and ITL Files](#)』

『[Rolling Back the Cluster to a Pre-8.0 Release](#)』

ロールバックが完了したら、もう一度テスト計画を実行して、すべてのサービスと機能が予期したとおりに機能していることを確認します。



第 4 章

リンクと参考資料

- ・ [リンクと参考資料, 23 ページ](#)

リンクと参考資料

関連情報については、次のマニュアルを参照してください。

インストール、アップグレード、および移行

[『Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide』](#)

[『Installing Cisco Unified Communications Manager』](#)

[『Install and Upgrade Guides for Cisco Unified Communications Manager』](#)

[『Upgrade Guide for Cisco Unified Communications Manager』](#)

[『Cisco Unified Communications Manager on virtualized servers』](#)

互換性

[UC 仮想化でサポートされるハードウェア](#)

[Cisco Unified Communications Manager 10.x の互換性情報](#)

ネットワークの設計と導入

[Cisco Collaboration Systems 10.x Solution Reference Network Designs \(SRND\)](#)

Cisco Prime Collaboration Deployment のベスト プラクティスについては、[Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide](#)を参照してください

ライセンス

[Cisco Prime License Manager リリース・ノート](#)

[『Cisco Software Licensing Portal Changes Quick Reference Guide』](#)

リリース情報

[Cisco Unified Communications Manager リリース ノート](#)

電話機ファームウェアのリリースノート。『[Cisco Unified Communications System Release Summary Matrix for IP Telephony](#)』では、すべての Cisco Unified Communications Manager リリースで推奨される電話機ファームウェアのバージョンをまとめています。

『[Documentation Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』

トラブルシューティング

『[Database Replication Error in Cisco Unified Communication Manager](#)』